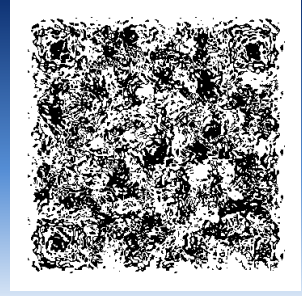




# COMPASS

挑む・考える

考える部便り No.8



## 学習時間より学習方略が成績に影響する

成績は学習時間の長さによるのでしょうか。それとも別の要因でしょうか。皆さんはどのように考えていますか。2021年5月25日の朝日新聞「学びを『科学』する」に、「学習時間より『学習方略』が成績に影響する（木村治生）」というタイトルの記事があります。少し前の記事ですが、内容がとても興味深く、授業づくりや家庭学習を考える上で参考になると感じました。この記事にある調査は、全国の小学校1年生から高校3年生までの子どもとその保護者の約2万人を対象とした調査です。詳しいことは、右上のQRコードから入って、直接読んでいただきたいですが、簡単にまとめると、下記ようになります。



- 学習の量である学習時間も、学習の質である学習方略も成績に影響する。
- 一定量の学習は必要だが、やみくもに学習時間を延ばすのは効果的でない。
- 学習方略の方が学習時間より成績に影響する。
- 学習方略が十分に発揮されるには、一定量の時間が前提である。
- 学年が低いほど、学習時間の効果は強く表れる。
- 学年が上がれば上がるほど、学習時間を延ばすだけでは難しい。
- 学習時間や学習方略に影響するのは、学習意欲やメタ認知である。
- メタ認知は小学校高学年からつき始めるが、突然つくのでもない。小さい頃から学ぶことの価値や楽しさを教師や保護者が伝え、自ら考えることを促すことが大事である。
- 学習意欲が高いほど、学習時間が長く、学習方略に取り組む比率が高い。
- 大学での学習時間は高校の学び方に関係する。高校在学时、「まじめに授業に出席」よりも「興味をもったことを自主的に勉強した」「グループワークやディスカッションに積極的に参加した」「計画を立てて勉強した」生徒ほど、大学での学習時間が長くなっている。

皆さんの経験や知識と一致している項目はいくつありますか？

運動会が終わり、宿題だけでなく、自学も充実させていきたいと考えている担任の方も多いと思います。ぜひ上述の分析を生かして取り組んでいきたいです。まず、学習時間を確保できているか確認し、どのような学び方をしているかも共有したいです。学習時間が足りないときは、「もっと増やそう」という働き掛けだけでなく、学習意欲が高まっていない可能性もあるので、課題の種類や量を選択できるようにしたり、魅力的な自学のテーマを例示したりしながら、子ども自身の「もっと学習したい」という気持ちを育みたいのです。また、低学年でも、学ぶ意味や学び方について考えることは大切です。「なぜ学ぶのか」「分かることは楽しい」という学習動機を共に考えながら、自立した学習者に近づけていきたいです。